研究終了にあたって

大谷 敏夫：鹿児島大学名誉教授

本重点涼気期研究に参加し「川勝班」の一員として鹿児島大学グループを担当しましたが、今回その成果を集約する時期になり月日のたつのが早いことを実感しています。四年間をふりかえってみれば、最初この研究に参加する意思を問われた時、鹿児島大学に在任している期間に東シナ海周辺の政治、経済、文化交流の問題を研究してみたいと考えていたのでよい機会が与えられたと思いました。川勝班のテーマが「環東シナ海地域間交流史」であったので鹿児島グループはその大前提のもとに薩摩と琉球、それに中国との交流を研究することをグループでの話し合いできめました。鹿児島には島津藩の蔵書の一部を蒐集した「玉里文庫」があり、ここには琉球関係資料が保存されていたのでそれを研究のテーマに取りあげました。これについては目録は作成されていたもののマイクロ化及び電子化はなされていなかったのでそれをグループの仕事としました。この作成に当たっては貴重文献である画像資料を電子化することの意義を十分わきまえた上で利用上のきまりを設け公開することになりました。当グループが画像資料の電子化、公開の先鞭をつけたことが今後の研究活動を大いに推進することになると確信しています。本研究班は情報研究がテーマであった関係上、どの班においても電子化の作業が進み、いくつかのＣＤ－ＲＯＭや画像データベースを作成された点、今後の学会活動に寄与すること大であると思います。また鹿児島グループでは、データ化する手始めとして鹿児島にある沖縄・環シナ海地域関係史料及び論文一覧を作成しましたが、このため鹿大付属図書館の他、県立図書館や各市町村の図書館、資料館まわりをしました。これには研究協力者の上園正人君が当たってくれました。このような地味な仕事のつみ重ねによってリストができあがっていくことを痛感しました。資料収集の過程で記載事項の訂正などもありこれも苦労の種でした。ところで本研究班の目的が情報収集だけでなくそれに基づく研究もかせたれていたこともあったので、その目的にそって私がとりあげた題目は薩摩の朱子学の創始者といわれている桂庵が明代の儒者から学んだことや、また桂庵の思想を継承した文之、如竹の影響を受けた琉球王朝の儒者のことなどについてでありました。日本史の研究者でない私がこのような研究ができたことも本研究班に参加したおかげであると思っています。本研究班が期間中、ニューズレターや「飛船」を発行し時々の審議の様子を詳細に研究メンバーに伝達された点は地方にいる班員にとって大変効果的でありました。また各班主催の研究会が各地で行われたことも本研究活動を盛りあげることになりました。これらの会合を通じて多々の人々と親しく交流できたこともありがたいことでした。

そして何よりも本研究班の目的である沖縄の歴史情報が的確に把握できるようになったことこそ研究班の最大の成果であったと思います。願わくばこのような研究活動が今後も進められることを念じています。